

戦争法案阻止・安倍政権打倒



国会会期を9月27日まで大巾に延長！

政府は国会の会期を95日間、9月27日までという大幅延長を可決した。なんとしても戦争法案をはじめ、労働法制などの悪法を成立させるために戦後最大の会期延長を可決決定した。例年では9月に臨時国会が開催されるため、一年を通して国会開会して審議を行うことになる。しかし、災害から労働者国民の生活を守る為に行うのではない。昨年7月に閣議決定した集団的自衛権の行使を実体化させるための戦争法案を可決/成立させるためである。

安倍首相と自民党、公明党が固執するこの戦争法案は憲法学者からも「違憲」と指摘され、そのやり方も時の政府/権力の独走を縛り、憲法の下で政治が行われなければならないという立憲主義を否定するものに他ならない。安倍首相は日本人を救出する米国軍艦への攻撃やホルムズ海峡の機雷封鎖などの絵空事を、あたかも今すぐ招来する危機のように描き、生身の人間である自衛隊員を戦場に送り出し、アメリカ政府と共同して戦争を行うことを夢想している。しかし、日本国憲法は戦争をしないことを明記し、戦後70年、戦争によって一人も殺されず一人も殺さず平和国家を実現してきたのである。安倍首相はこの憲法を破壊しようというのである。昨年末の衆議院選挙によって自公が3分の2の議席を占めている今、それを強行しようというのである。その前段に戦争法案を成立させ、自衛隊を海外に派兵して日本を戦争する国に作り替えようというのである。許してはならない。

国会を取り囲む労働者・市民

いま連日国会前では300人を超える労働者市民が座り込みを続けている。毎週木曜日には2000人を超える人々が国会を取り囲んで抗議の声をあげている。6月14日には25000人が集まり、6月20日は女性を中心に15000人が赤い服や帽子をかぶり「戦争をさせない、許さない」と国会を包囲した。この闘いは全国に広がり続けている。そして若者の参加も日増しに増えている。更に大きく

全国各地に拡げていこう。

安倍政権を打倒し、沖縄と連帯してすべての基地を撤去させよう！

今日、6月23日は1945年に沖縄戦が終結した日である。日本軍国主義が始めた第二次世界大戦に於いて日本で唯一地上戦が行われ、沖縄の人は四人に一人が犠牲となった。その慰霊の日を前に安倍首相は再び戦争をするために国会会期延長を強行したのである。そして『肅々と』辺野古新基地建設を暴力的に推し進めているのである。沖縄の人々は辺野古新基地建設を阻止するために島ぐるみで闘いを継続している。それは再び日本を戦争する国にしないためだとも述べている。日本本土の労働者・市民こそ戦争を全体させない決意をもって沖縄の人々と連帯しなければならない。全力で闘い抜こう。

国会抗議行動 毎週木曜日(18:30~)に結集を！

国会95日延長 戦後最長

安保法案 衆院再議決も可能に

衆院は22日夜の本会議で、24日までの国会会期を9月27日まで95日間延長することを自民党と公明党などの賛成多数で議決した。連立国会として戦後最長の延長は、世論の反対が増している安全保障関連法案を今国会で確実に成立させるという、安倍首相の強い意向が反映された。

首相「決める時には決める」

安倍首相は会期延長議決のお盆前までの延長を希望し、22日夜、国会内で記者団に「この国会は、戦後以来の大改革を断行する改革断行国会だ。しっかりと議論を重ね、決めていくために、95日という最大の延長幅をとった。徹底的に議論し、決める時には決める。この国会創民主主義の王道を進んでいくべきだと判断した」と語った。首相ら官邸幹部は当初、大幅延長には慎重で、8月



安倍首相が米国議会議場演説で「この夏までに成就させる」と宣言した安全保障関連法案。政府の憲法解釈を担ってきた内閣法制局長官の経験者2人が、改めて法案の核心部分に疑問を突きつけた。政府・与党は異例の大規模国会延長で「時間を確保したが、成立のめどはまだ立たない。」

- ▼3面=元長官も
- ▼4面=「丁寧に」
- ▼16面=社説
- ▼38面=識者は

政権運営への危険もはらむ。今国会での安保法案成立に反対する世論は強まっており、安保法案の国会審議が滞ることで内閣支持率が低下する可能性がある。夏以降には世論の反対が根強い原案再核案も予定される。政府高官は「安保法制で支持率が10%下がることは覚悟している。でも、またすぐ回復する」と語るが、今後、政権は世論の動きに神経をとがらせることになりそうだ。